東京八王子プロバスクラブ

創立 1995 年 10 月 18 日

2015～16年度　テーマ

プロバスだより

第248号

2016年7月14日発行

http://www.tokyo-hachioji-probusclub.jp

編集・発行：情報委員会

仲間の輪を広げ、楽しみの環を広げよう

第 248 回例会

日　時：平成 28 年 6 月 9 日(木)　16:00～17:00
場　所：八王子エルシィ
出席者：60 名　出席率 89.6%
（会員総数 70 名　休会 3 名　欠席 7 名）

1. 開　会　　荻島例会委員長

配布資料の確認

2. 挨　拶　　永井会長

皆さんこんにちは。早いもので、今年度最後の例会ということになりました。振り返って「プロバスだより」の一番上の方にあります､「仲間の輪を広げ、楽しみの環を広げよう」というキャッチコピーで始めたわけです。

このキャッチコピーの思いというのは、我々プロバスクラブの会員を増やしたい、そういう思いがキャッチコピーを考える根底にあったわけです。そういうことで皆様のご協力を頂きまして、新しいお仲間を迎えることが出来ました。本当にありがとうございました。今年度は創立 20 周年の節目に当たり、例年とちょっと違いまして、最初の音楽会、その後に記念式典がありました。続いて「宇宙の学校の 5 周年」もということで、展示会も開催され、皆様大変長いあいだ働いたわけで、全てにおいて大変好評のうちに終わることが出来ました。皆様に深く感謝する次第です。

今年は今年､次年度はこの後に発表がありますが、次年度の方々にも頑張って頂きたいと思います。

本日はお客様として東京八王子南ロータリークラブの会長さんと 30 周年の実行委員長がお見えになっております。ひと言お礼をということですから、ご挨拶を頂きたいと思います。

・ご挨拶

東京八王子南ロータリークラブ会長　山口進一様

東京八王子南ロータリークラブの会長をしております山口進一でございます。こちらが 30 周年記念式典の実行委員長をしました、清水宣彦でございます。

式典には非常に多く、20 人近くのプロバスの皆さんにご出席賜りまして、会が盛り上がりました｡本当にありがとうございます。何といってもフィナーレを飾って頂いたシニア・ダンディーズ。元はといえばうちのクラブの前座みたいなのを私もやったんですが恰好だけでもタキシードを着なければといわれ、無いやつは買ってくるんだと云った雰囲気があり前日まで大変でした。私はタキシードなんて着たことがなく、大変な思いをしまして、恰好だけは何とかつけました。

歌った曲がまた難しくて、私は低音の方にいって人様の前でやっていいのかなと思ったのですがとにかくやりました。私たちも充実感を持ってやったとの思いがございました。フィナーレにシニア・ダンディーズの歌われた曲に思い出深い感がございました。20 周年でシニア・ダンディーズを見まして、うちでもやろうということになり、曲まで作ってこんな羽目になりました。色々な方からメールや電話を頂き、向こうはプロ並みだからポット出のメンバーでは太刀打ちできないよ、といった慰めの言葉も頂きました。非常に和気あいあいで、プロバスさんの多くのご臨席はありがたく感謝申し上げます。

プロバスだよりのキャッチコピーが私たちのやった曲の詩の内容によく似ており、杉山さんがすぐに

投稿してくださって、わがクラブ平均年齢 77.9 で八王子南は 60 歳なので年齢差は約 18 歳ですが、両者の年齢の隔たりはあってもウィンウィンの関係はこれからも維持していきたいものです。

清水さんにお前、全部喋ってしまったのかといわれそうなのでこの辺でやめます。

・八王子南ロータリークラブ

30 周年記念事業実行委員長　清水宣彦様

私、清水でございますが、会長がほとんどしゃべりましたので、私からは何も申し上げることはございません。ですが、盛会裡に 30 周年記念式典を終えることが出来ましたのも偏に皆様のお陰と改めて御礼申し上げます。

なお今後ともプロバス様と私どもの関係は続いていくと思います。これからもウィンウィンの関係で行きたいと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。

3. ハッピーコインの披露　　岩島副会長

（5～6 ページに掲載）

4. バースデーカード贈呈

永井会長から 6 月生まれの 5 人の会員に、池田会員手作りのバースデーカードが贈られました。写真左から、一瀬明、廣瀬智子会員（山形忠顯、磯洋一、持田律三会員は欠席）

5. 次年度組織の報告　　岩島次期会長

5 月の例会で 11 名の理事と 2 名の会計監査の選任が承認されました。去る 5 月 29 日、次年度理事会を開催し、役職・理事分掌を決定いたしました。同時に各委員会に所属する構成メンバーも併せて選出いたしました。

ご紹介しますので、皆様のご協力をお願いしたいと思います。

次期役員分掌（敬称略）

会　長	岩島　寛
副会長	武田洋一郎
幹　事	飯田冨美子
副幹事	寺田　昌章
例会委員長	宮城　安子
情報委員長	有泉　裕子
会員委員長	土井　俊雄
研修委員長	池田ときえ
地域奉仕委員長	持田　律三
交流担当	浅川　文夫
宇宙の学校リーダー	下山　邦夫
会計監査	川村　真
会計監査	内山　雅之

次期副委員長（敬称略）

例会副委員長	荻島靖久	山崎光子
情報副委員長	河合和郎	永井昌平
会員副委員長	馬場征彦	岡部　洽
研修副委員長	戸田弘文	野口浩平
地域奉仕副委員長	山口三郎	田中信昭
宇宙の学校（サブリーダー）		内山雅之

6. 幹事報告　　田中幹事

1) 期末スケジュールの確認：本日次年度の新体制が発表された。本日から 6 月末までの間に新しい委員会毎の顔合わせや新旧の申し送り等過密なスケジュールになるが、連携宜しく実施を。

2) 熊本震災義援金集約：5 月 12 日の募金集約結果募金額 71,109 円に 20 周年のチャリティーから 28,891 円を加え、10 万円を 5 月 25 日に八王子市福祉部を通じて日本赤十字社に拠出した。感謝。

3) ホームページ検討プロジェクト（馬場理事リーダー）の検討結果が理事会で報告され、次期以降の方向性が示されたものとして申し送る。

4) 事務局の住所を次のように定めた。

〒192-0056　東京都八王子市追分町 9-3

・6 月 9 日「今日は何の日」; 日本とインドとの間で講和条約が結ばれた日。1952 年のこの日東京において日本側外務大臣岡崎勝男、インド側インド大使館特命全権大使Ｋ・Ｋ・チェトゥール間で調印。

・もう一つ。この日はディズニーアニメのキャラクター、ドナルド・ダックの初登場した日。「かしこいメンドリ」で 1934 年のこの日の初登場以来、出演作品は 170 本を超え、ミッキー・マウスの出演数を上回る人気者になった。

・誕生花：スイートピー、花言葉：優しい思い出

・一年間に亘り、毎月「今日は何の日」をお聞き下さり、有難うございました。

7. 委員会活動報告等

(1) 例会委員会　　荻島委員長

例会出席率の報告。

(2) 情報委員会　　土井委員長

「プロバスだより第 247 号」をお届けしました。今回の編集は池田委員のまとめによるものです。

第 20 回学習サロンの冊子は昨年とほぼ同じ 46 頁の規模にまとめ、発行することができました。担当者は素人の集まりで大変苦労をしました。写真については自画自賛ではありませんが、大変きれいに入りました。

7 月発行予定の「プロバスだより 248 号」まで今期の委員会の担当です。一年間、多大なご協力を頂きました。ありがとうございました。なお、投稿原稿をお待ちします。よろしくお願いします。

(3) 会員委員会　馬場委員長

皆さんには新会員の募集にご協力たまわり有難うございました。

会員の現況を報告します。今月末に熊田、磯会員が退会され、会員数は 68 名となります。この内、荒、竹内、高橋の 3 会員は休会となります。今年度は 6 名の新加入がありましたが、残念ながら 5 名の退会者がありました。

会員の平均年齢は、6 月末現在で 77.9 歳となります。

お手元に新年度の会員名簿を回覧しています。修正があれば朱字で訂正をお願いします。7 月の例会に新規の名簿をお配りします。

(4) 研修委員会　　宮城副委員長

三つの柱で事業を実施しました。

① 野外研修は例会を兼ねて、鎌倉巡りを実施。参加者は 35 名。

② 卓話を重点に実施し、会員 7 名、外からの講師 1 名、計 8 回実施。

③ 講師派遣事業は、要請が 1 件も無かった。

同好会の活動報告を提出してください。

(5) 地域奉仕委員会　　山口委員長

第 20 回生涯学習サロンは 5 月 12 日に閉講式・さよならパーティーをもって無事終了することが出来ました。

本日お配りしたサロンの報告書の最終ページに参加状況をまとめてあります。総参加者数は 775 名となり、前年度比 9%の増加でした。この内、一般会員が 21%増となりました。来年度もより良いサロンの開催を期待し、皆様のご協力に改めて感謝申し上げます。

(6) 交流担当　　立川委員

（全日本プロバス協議会副会長）

全日本プロバス協議会「第一回東日本ブロック交流会」開催の案内状をお配りしました。1 人でも多くの参加をお待ちします。東日本交流会の実行委員会等の詳細については追ってお知らせします。

地元開催と言うことでもありますし、お手伝いして頂くことも多くあります。奮ってご参加ください。

(7) 八王子「宇宙の学校」　　下山運営本部長

① 前回の後援会報告で、八王子「宇宙の学校」へのプロバスクラブの支援の金銭的面からの負担軽減策が話された。今回は人的側面の新施策の進行状況を申し上げる。

その基本は、大学生によるボランティア倶楽部を立ち上げ、その倶楽部が永続的に続く事によって、八王子「宇宙の学校」を堅固なものにし、更なる拡大に応え、かつ、プロバスクラブの負担軽減につなげたい。この支援倶楽部については、すでに東京薬科大、創価大、東京工科大で発足した。

工科大の場合は、応用生物学部の社会奉仕の単位の一部として、1 年生全員が 1 回ずつ「宇宙の学校」スタッフを務め、継続する学生はいなかった。継続して毎回 T. S の先頭に立ってリードするスタッフをボランティア倶楽部とし、8 名（昨年経験者）で

スタートした。

薬科大から 15 名（生命科学部、薬学部）の登録があり、教育センター会場に参加する。

創価大では 20 名（理工学部）の登録があり、教育センター会場に参加する。

これらに伴いプロバスクラブのスタッフの負担は軽減されるが、ボランティア学生の経験不足があるので、その指導などプロバスクラブスタッフの経験を活かして指導役を務める必要がある。

② これらの事情を考え、6 月 9 日 13:00～14:00 にスタッフ全員でミーティングを開き、具体的な活動の細部を審議した。

③ 八王子「宇宙の学校」参加者募集状況

5 月 27 日締め切った。応募数は下記の通り（募集期間が短かったためやや下がった）。

★東京工科大会場　232 組(募集 96 組　96 組を受け入れ)

★教育センター会場　120 組(募集 80 組　80 組を受け入れ)

★八王子北高校会場　40 組（募集 32 組　40 組の受け入れは可能な会場）

8. プロバス賛歌斉唱

9. 閉　会　　岩島副会長

大変に早い進行で例会が終わった。南ロータリークラブの会長からは、ウインウインの関係でと言うお話も戴いた。

来期については、新しいメンバーで一年間やっていきたい。是非ご協力を頂きたい。以上で今年度最後の例会を終わります。一年間有難うございました。

懇　親　会

例会に引き続き、年度末恒例の懇親会が 5 時 30 分から開かれた。進行は根本照代会員と鈴木はるみ会員によって進められ、永井会長の挨拶、土井俊玄前会長の音頭で乾杯があり、会食・懇親会に入った。

最初に今期で退会される熊田会員によるピアノ演奏「愛の賛歌」が披露され、続いて土井俊玄会員が、ピアノの調べに乗り、「マイウエイ」「また逢う日まで」を熱唱、会場には和やかな雰囲気が流れた。

余興第一部

お楽しみゲーム　　塩沢会員

塩沢会員のリードで、全員参加のゲームが展開され、舞台の上では口にくわえたストローによる輪ゴムリレーが行われた。（写真）

各委員会等のスタッフ挨拶

① 情報委員会

② 会員委員会

③ 研修委員会

④ 地域奉仕委員会

⑤ 交流担当

⑥ 宇宙の学校

⑦ 三役

⑧ 例会委員会

新会員の勢ぞろい

余興第二部

カラオケタイム

日ごろ鍛えた喉自慢の面々が登壇。美声を響かせていた。

会員の輪をいつまでも　　宮城会員

宮城会員のリードで、全員が大きな輪を作り、「夕やけ小焼け」の歌を合唱。「一年間ご苦労様」「来年度も頑張りましょう」の気持ちを込めた歌声が会場一杯に広がり、懇親会は終りを迎えた。

閉会の挨拶　　岩島副会長

この一年間、ありがとうございました。日本には沢山のプロバスクラブがありますが、私は生涯学習サロンも宇宙の学校も他のクラブに自慢できる素晴らしい活動だと思っています。自画自賛ですが、シニアダンディーズもよくなってきています。

来年度は不肖私が会長として、皆さんと共に頑張てゆきたいと思います。本日はありがとうございました。

ハッピーコイン

◆30 周年の式典を盛り上げて頂き本当にありがとうございました。

八王子南ロータリークラブ会長　山口　進一
30周年実行委員長　清水　宣彦

◆ちょっと早いですが、一年間ご協力ありがとうございました。　永井　昌平

◆今年度もあともう少しというところまできました。20 周年記念行事を始め、忙しい一年でしたが、皆様のお陰で無事終われそうで、感謝・感謝です。　田中　信昭

◆一年間、永井会長ほか理事の皆様のクラブ奉仕に感謝して！！　杉山　友一

◆一年間の理事のお仕事ご苦労様でした。20 周年記念事業を含め数々の事業も無事終えました。新しい年度に向けてがんばりましょう。　立川冨美代

◆例会委員会も荻島委員長の強力なリーダーシップのもと、委員一同一丸となってこの一年大過なく業務を終えることが出来ました。皆様のご協力ありがとうございました。　東山　栄

◆会員委員会の活動にご協力頂き、大変有難うございました。　馬場　征彦

◆情報委員会は、「プロバスだより」を一カ月残しますが、皆様のお陰で何とか終了出来そうです。ご支援ありがとうございました。　土井　俊雄

◆会員のみんなで力を合わせ楽しく有意義な一年が終わりました。いつまでも明るく楽しいプロバスクラブでありますように！　宮城　安子

◆学習サロン、お陰様で無事に終了することが出来ました。ご協力に感謝します。　山口　三郎

◆「宇宙の学校」いよいよ 6 月 12 日に開校です。今年も成功を祈って。　下山　邦夫

◆シニア・ダンディーズが東京八王子南ロータリークラブの創立 30 周年のお祝いに出演してきました。今年は次々と大きなステージの予定があり練習にも力が入ります。八王子プロバスの名に恥じぬよう頑張ります。　立川冨美代

◆永井会長はじめ役員の皆様、一年間有難うございました。安定感のあるクラブ運営だったと思います。岩島新会長はじめ新役員の皆様、引き続き宜しくお願いします。　佐々木研吾

◆新年度の役員の皆様ご苦労さまです。よりよい一年でありますように。　佐々木　正

◆113 番目新元素「ニホニウム」日本由来の元素名が確定する予定です。近代科学史上の快挙です。来年夏に正式決定するのが今から楽しみです。　飯田冨美子

◆7月4日より上海にいって632mの世界二番目に高いビルを見て今月 OPEN の上海ディズニーランド入場可能ならと期待す！　野口　浩平

◆同居している（と言いましても、大学生を頭に 3 人の子を持つ母親ですが）テニスの東京都大会女子ダブルスで何と準優勝し、関東大会に出場することになりました。　田中　信昭

◆日野市にある盲人施設、光の家で 5 月の第 5 日曜日に第 2 回目の講話をしてまいりました。200 人余りの目の見えない方たちが静かに聞いてくださり、嬉しかったです。　岩島　寛

投　稿

終らない震災　　持田　律三

津波と石巻～

神奈川の本社でリーマンショック後の業績の回復状況について会議をしていた。その時経験したことのない地震が起きた。2011 年 3 月 11 日 14 時 46 分である。建物が破壊される程の強烈な揺れが少し落ち着いたので、TV をつけると東北地方に津波が次々と押し寄せてきている。太平洋側の川をすごい勢いで遡上してくる津波が映っていた。これは本当に現実なのかと目を疑った。大きな余震が何度もあった。妻の実家の宮城県南部や父方の生家、石巻の惨状が放映されている。家屋が次々に丸ごと流されていく。茫然と立ちすくみ息を呑みながら、車や大樹、ドラム缶などすべてが津波の上に玩具のように浮いて流れている。旧北上川が荒れ狂った海のようになっている映像を何度も反芻しながら見ていた。

石巻には連絡が取れないまま数週間過ぎた。生家は海から数百㍍の石巻市立病院の近く南浜町であり、街がそっくり無くなってしまっていた。家長である妻の従兄が行方不明であることが分かった。わが家でも毎晩インターネットで現地対策本部や避難場所に張り出される行方不明者の貼紙を確認する日が続いた。結局行方不明の状態のまま、2011 年秋に妻と私は一緒に従兄の家族が住む仮設住宅を訪ねた。

従兄の位牌と骨壺が狭い居間に置いてあったが、骨壺には遺体が発見されていないので、流された家

の跡地の土が入れてあった。私たちは合掌し冥福を祈った。菩提寺に行ったが墓石はほとんど津波で倒され壊れていた。少し高台の本堂の柱と屋根が辛うじて残っていた。痛ましい姿であった。そして、遺体は翌年2月に発見された。

今年3年振りに石巻へ帰った。遺族の気持ちが整理できて、流されてしまった墓石を新しく建て直したからである。周囲には当時の崩れたままのお墓もたくさんあった。菩提寺の境内の片隅には、壊れた墓石の家名を上にして整然とたくさん並べてあった。（写真・**天を仰ぐ墓石**）寺が墓を見守る人も親族も流されてしまい、誰にも見守られない墓石を取り出して片隅に寄せたのだ。天を仰いで家族を待っている墓石はいつまで待ち続けるのだろうか。

夫のロマンは妻の不満？　　有田　進治

私は若いころからテニスに興じ､今も週1回程度、地域で汗をながしています。最近、体力の衰えを感じ、思うようにプレーが出来ず、歯がゆい思いをすることも多くなってきました。

そこで､これからも永く楽しめる運動をしようと、2年前から卓球を始め、週一回、地域の仲間10人くらいで近場の学校の体育館等を借りて楽しんでいます。1 時間程度やると汗が出て、丁度良い運動になります。ただ、悩みは学校が休みの時などは体育館が使えないことです。

「そうだ！自宅に卓球場を作ろう」と、まさに天からの啓示のごとく突然アイディアがひらめいたのです。幸い3人の子供も無事独立し使わない部屋があります。これらのスペースを活用すれば立派な卓球場にリフォームできると考えました。

最大の難関は妻の了解を得ること。とかく夫のロマンは妻の不満のもと。正直に卓球場にリフォームしたいと申し出れば、年金生活者ゆえ、それなりの投資を伴うこの夫のロマンは、妻の現実的な生活判断からみれば、即、拒否権の発動の対象となるのは明らか。そこで半年がかりで妻の説得工作に取り組むことになりました。

妻は水彩画を趣味としており、家でもリビングの片隅で時間を見つけては窮屈な姿勢で絵を描いておりました。そこで、広いアトリエがあったほうが良いのではないか？　また、孫たちが6人にもなり、正月など家族が一同で会して食事をするには、大テーブルと大スペースが必要になってくる。このように、我家にも広い多目的スペースが必要と、もっともらしい色々な大義名分を並べたてた。勿論、本心は明かさずの説得ですので、今一つ迫力に欠け、なかなか首を縦にふってくれません。

しかたなく窮余の一策、子供や孫を援軍にし、家内を完全に包囲する作戦に切り替えました。幸いこの作戦は功を奏し、衆寡敵せずの通り、妻も不承不承ながら、このリフォームを認めざるを得なくなりました。めでたくリフォームが完成の暁には、卓球仲間を招待し、ささやかな「打ち初め式」を行いました。

今後は、この卓球場を地域社会に開放し、老若男女、いつでも集まって卓球やお茶を飲みながら気軽に語り合えるサロンにしたい。また、できれば放課後、行き場の無い学童を預かり、少しばかり地域貢献もしたいとの夢も膨らませています。

当然、このロマンも今は妻には内密です。

高尾・夏の花　　八木　啓充

高尾の季節の花を写真に収めようとプロバス例会の前日6月8日（水)、町内のラジオ体操をサボリ高尾駅に向かった。7時12分発小仏行バス始発に飛び乗る。乗る前にトイレとコンビニで握り飯を買うのがやっとである。

春はハナネコノメソウ、キクバイチゲ、ミヤマカタバミ、チャルメルソウ、高尾はスミレの花の宝庫で、アオイスミレに始まりエイザンスミレ、ニョイスミレそれにタカオスミレ、スミレの季節の最後を飾るのがコミヤマスミレなど両手の指では足りないほどの種類を見ることができる。

さて、夏になるとさすがに花の多い高尾でも花は

目立たなくなる。小仏峠への沢道で先ず目に入ったのはヤマアジサイ別名サワアジサイである。まだ早いのかツリフネソウの赤紫の花を見つける事が出来なかった。小仏峠近くではウツギの花が頭を重く垂れ咲いているのをみつけた。近くにはマタタビが葉を半分白く輝かしているのが目に入った。

今日の天気予報では一日中曇り、時には雨が降るかもとの予報に、傘を持って登ってきたが、青空が見えてきたのはラッキーな外れ予報である。

景信の山頂近くでブルンブルンとエンジンの音が響いてきて、やがて2軒ある山頂小屋の、上の方の青木さんが荷揚げをしているところに追いついた。山道を懸命に荷揚げする姿に励まされ、先に山頂に到着。727mの山頂を独り占めに出来て気分爽快。

山頂西側に4弁の真っ白なヤマボウシの花を見つけた。花といっても白い花弁のようなものは総苞と言い特殊な葉だそうで花芯が本当の花である。

景信山からの尾根道は比較的平坦で、ただ距離を稼ぐだけ。途中恩方から堂所山、相模湖側の底沢からの道を合わせ、明王峠で一服。丹澤の山並みが晴れた空に輝いている。ここから陣馬までの1時間半は登りが続く。さらに陣馬に近づくと柏の木が目に入ってくる。これは江戸時代、上恩方村や隣の佐野川村では柏の葉、柏の皮（漁網の染料）が特産品であったそうである。

景信頂上付近では黄色い可愛らしいハナニガナが道の両脇を飾ってくれていた。山頂の草原には蕨がもう葉になっていたのは残念、もう少し早い季節ならばと悔やまれた。山頂では清水茶屋で名物の「なめこ汁」に持参のむすびで、素晴らしい眺望をおかずに昼食。

山頂からの下りは陣馬鉱泉に下りる栃谷尾根、和田部落への一の尾根があるが、和田発のバスに間に合うので急な一の尾根を下ることにした。藤野駅行きのバスの客は私1人、申し訳ないようであった。さすがに20㎞近い山歩きは身に応えたので、駅で暫く待って「東尾垂の湯」の送迎バスにて温泉に行く。この温泉は南藤野の神奈川カントリー先にあるかけ流しの、西丹澤の山が見渡せる素敵な湯で、湯上りのビールに疲れを癒し、夏の花旅行の一日が終った。

俳句同好会便り

私の一句～6月の句会から

河合　和郎

十人十色の作風が面白い。個性豊かな句が並んでいる。句会の深まりが更なる佳句を生む好循環。毎月の充実した句会が盛り上がっている。

襲はれし巣を繕ふて夫婦燕　　山形　忠顯

烏が燕の巣を襲って卵や雛を奪い去る。弱肉強食の自然界。しかし、燕にもめげない強さがある。

早苗田の一枚ずつに空光る　　池田ときえ

大きな景を平易に詠んで秀。美しい日本の原風景の一つが眼前に浮かぶ。夜には満天の星空が浮かぶ。

雷門ショートパンツに頭陀袋　　田中　信昭

外国人の姿が目に付くこの頃だが、旅の格好はそれぞれ。ショートパンツ姿は仁王さんも眩しいか。

さくらんぼ丘の宝石摘みに行く　　飯田冨美子

さくらんぼは正に宝石のような輝きを持つ。「丘の宝石摘みに行く」が何とも詩的で素敵な表現。

オレンジの星の神秘や梅雨晴れ間　　立川冨美代

5月31日のスーパーマーズを一句に。宇宙の一大天体ショーを俳句に仕立てる貪欲さがいい。

石垣に赤き蟹棲む古城かな　　馬場　征彦

最高点句。蟹と古城の取り合わせがにくい。材料の発見とそれを生かした詠み方が見事。

旅先の鮎の塩焼きワンカップ　　渋谷　文雄

気取らない詠み方に俳句の醍醐味がある。ワンカップが泣かせる。旅も人生もこういきたいもの。

夏場所も綱に届かぬ国技かな　　東山　榮

もう何年も日本人の横綱は生まれていない。ファンの期待は大きかったがダメだった。次に期待を。

老鶯の声しきりなり米を研ぐ　　河合　和郎

朝な夕な厨には、裏山から鶯や時鳥の声が聞こえて来る。そんな田舎暮らしの一景を一句に。

お届けする248号は28年度最後の例会の様子と寄稿3本を頂いて、賑やか且つ多彩な紙面構成が出来ました。一年間、労を惜しまずご尽力された委員の皆様に深謝申し上げ、結びとします。　　情報委員会委員長